

発達障害グレーゾーンと抑うつ傾向との関連及び 実現可能な支援策の検討

○大藤音和¹・武田知也¹

(¹人間環境大学総合心理学部総合心理学科)

問題と目的

近年「発達障害」という言葉が急速に知れ渡る中、発達障害の診断確定に至らない「グレーゾーン」に該当する人が増加傾向にある。その支障は大きく、若者の就労支援の現場では、発達障害の疑いがある者のうち8割以上が学生時代に困難を抱えており、「障害者手帳あり」よりも「疑いあり」の方が困難の多い人の割合は大きい(宮本, 2015)。教育現場においても、見えづらい障害を抱える子どもの支援には限界がある(山中, 2020)。また、発達障害のうちASD(自閉スペクトラム症)を有する者は精神疾患にかかりやすく、ストレス状況下では抑うつ状態に陥ることが少なくない(澤原他, 2017)。池田(2015)の研究では、ASDと抑うつとの関連が見られた。

そこで本研究では、大学生を対象に、ASDのグレーゾーンに限定して抑うつ傾向との関連を検証することを目的とした。

方法

対象 A大学の1年生から3年生の計67名(年齢:18-22歳)を分析対象とした。そのうち、通院している参加者やカットオフ得点を超えなかった参加者を除いた11名をグレーゾーンとして新たに分析対象とした。

評価尺度 ASD傾向では、自閉スペクトラム指数(Autism-spectrum Quotient: AQ; 以下AQ)日本語版(若林他, 2004)を使用した。カットオフ得点はM.R.Woodbury-Smith(2005)を参考に26点以上とし、本研究ではそれをグレーゾーンと定義した。過去にASDを疑い受診したが診断がつかなかった者もグレーゾーンと定義した。抑うつ傾向では、ベック抑うつ質問票日本語版(Beck Depression Index II: BDI-II; 以下BDI-II)を使用した。通常は各項目の総得点を用いて評価を行うが、日本人の成人データにおいて「認知的要素」と「身体的・感情的要素」の2因子モデルが適合することが確認されている(小島・古川, 2003)。池田(2015)の研究ではこの2つの因子が分析に使用されているため、本研究でもこの因子を使用

して分析を行った。

統計解析 67名のデータとグレーゾーンに該当した11名のデータに対して、それぞれ相関分析を行い、スピアマンの順位相関係数を求めた。

結果

いずれの分析も、BDI-IIの下位尺度同士やAQの下位尺度同士で有意な関連が見られたが、BDI-IIとAQの下位尺度との有意な関連は見られなかった。

Table 1 67名のデータの要約統計量と相関係数

	Mean	SD	1	2	3	4	5	6
1 認知的要素	6.48	5.83						
2 身体的・感情的要素	6.58	5.61	.76**					
3 社会的スキル	5.21	1.19	.02	.07				
4 注意の切り替え	4.82	1.39	-.18	-.10	-.16			
5 細部への注意	4.73	1.55	.00	.21	-.03	.20		
6 コミュニケーション	3.93	1.77	-.18	-.19	.01	-.09	-.25*	
7 想像力	3.97	1.34	-.16	-.11	.04	.14	.03	.00

** $p < .01$, * $p < .05$

Table 2 11名のデータの要約統計量と相関係数

	Mean	SD	1	2	3	4	5	6
1 認知的要素	3.64	3.59						
2 身体的・感情的要素	4.27	3.69	.79**					
3 社会的スキル	5.81	0.87	.15	.73				
4 注意の切り替え	5.81	1.08	.08	.00	-.64*			
5 細部への注意	5.46	1.81	.28	.18	-.47	.21		
6 コミュニケーション	5.55	1.57	.46	-.28	.22	.14	-.36	
7 想像力	4.91	1.45	.30	-.27	-.29	-.36	.00	-.37

** $p < .01$, * $p < .05$

考察

池田(2015)の先行研究では141名を分析対象とし、男女比では女性が多かったものの本研究より性差は少なかった。本研究ではサンプルサイズに加えて性差が影響し有意な結果が得られなかった可能性がある。

また、ASDの特徴自体が抑うつ傾向に関わっているのではなく、ASDの特徴によって起こる日常生活への問題が抑うつ傾向に関わっている可能性もある。

今後はN数を増やし、性差をできる限り均等にすることが必要である。また、ASDの特徴によって起こる日常生活の問題が関連しているかを検討するために、当事者への面接を通じて考察を行う必要がある。